

日向・入郷地域の減災に係る取組方針 進捗状況表 (日向土木管内大規模氾濫等減災協議会) ❁ 平成29年度実績及び平成30年度の予定

■ 概ね5年間で達成すべき目標

- 大規模氾濫等に対し地域防災力を高め「水害・土砂災害に強い地域づくり」を目指す。
- 圏域内の広域的な防災協力関係を進化させるとともに、圏域外からの支援体制づくりを整えて、災害からの早期復旧を図る。

取組番号	主な取組項目	課題対応	目標時期	年度	平成29年度										
					実施主体	日向市	門川町	美郷町	諸塙村	椎葉村	宮崎県				
(1) 円滑かつ迅速な避難のための取組															
(1)-1 情報伝達、避難計画等に関する取組															
①	ホットラインの実施、改善	A 口	継続実施	取組内容	H29.5.30 減災協議会にてタイムライン・ホットラインを整備 気象台～自治体間については平成26年度から台長及び首長クラスの携帯電話番号を交換して、体制を構築済み										
					9/17 13:11 耳川東郷橋避難判断水位超過の受信 9/17 13:15 避難勧告発令（耳川）	9/17 8:42 五十鈴川更正橋避難判断水位超過の受信 9/17 8:50 避難勧告発令（五十鈴川）	—	—	—	9/17 8:42 更正橋避難判断水位超過の発信 9/17 13:11 耳川東郷橋避難判断水位超過の発信 9/17 13:40 門川町土砂災害警戒レベル3の発信					
				進捗状況	H29.5.30 減災協議会にてタイムライン・ホットラインを整備 気象台～自治体間については平成26年度から台長及び首長クラスの携帯電話番号を交換して、体制を構築済み										
②	タイムラインの活用、改善	B 口	継続実施	取組内容	台風第18号等において、各機関がタイムラインに則り、適切に防災行動をとった。										
				進捗状況	進捗：継続										
③	様々な方法を活用した災害危険性の周知	C D イ	継続実施	取組内容	台風第18号等において、各機関がタイムラインに則り、適切に防災行動をとった。										
				進捗状況	進捗：継続										
④	ICTを活用した災害情報の提供	C	継続実施	取組内容	台風第18号等において、各機関がタイムラインに則り、適切に防災行動をとった。										
				進捗状況	進捗：継続										
⑤	隣接市町村等における避難所の設定（広域避難体制の構築）	E	H29年度～順次実施	取組内容	日向・入郷地区防災専門部会において、管内の災害時受援計画等の策定について協議中										
				進捗状況	進捗：継続										
⑥-1	浸水想定区域又は土砂災害警戒区域内にある要配慮者利用施設の市町村地域防災計画における速やかな指定	F 二	H29年度～順次実施	取組内容	防災計画の見直しを検討中	土砂災害区域内に一施設あるが、避難計画も作っており、今後指定、計画の変更を図っていく。	防災計画の見直しを検討中	防災計画の見直しを検討中	浸水想定区域なし 土砂災害警戒区域については、検討中	県内の対象河川35河川のうち、31河川で想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域の検討に着手 【日向管内】 策定済：耳川 策定中：塙見川、五十鈴川、小丸川 土砂災害警戒区域等の指定の推進	ホームページなどで防災気象情報を提供中				
				進捗状況	進捗：継続										
⑥-2	要配慮者利用施設における避難確保計画作成及び避難訓練の推進	F 二	H29年度～順次実施	取組内容	一部の施設において計画の作成と避難訓練が実施された。	平成29年6月に情報連絡訓練を実施した。	要配慮者利用施設管理者にて避難確保計画を策定中（4事業所策定済み） 福祉施設は策定済みであるが、病院、診療所、学校等がまだ策定できていない。	要配慮者利用施設管理者にて避難確保計画を策定中。	各施設において避難確保計画作成の推進を図り。避難訓練については各施設で毎年実施している。	要配慮者利用施設に関係する部局を集め調整会議を3回開催し、施設管理者による迅速な避難確保計画の策定や避難訓練等の実施に向け、関係部局間での協力体制の確立、情報共有、各部局における対応事項等の確認を実施。	進捗：継続				
				進捗状況	進捗：継続										
⑦	地域防災計画における避難勧告等発令基準の妥当性の検討	ハ	継続実施	取組内容	耳川の水位基準見直しについて、土木事務所と協議を行った。	五十鈴川の発令基準の妥当性について、タイムラインの有効性を見ながら検討していく。	発令基準は定めているが、継続して検討中	避難勧告の発令基準は定めているが、継続して検討中	現在の発令基準の見直しを随時検討していく	進捗：継続	進捗：継続				
				進捗状況	進捗：継続										
(1)-2 住民の防災意識の向上に関する取組															
①	想定最大規模の降雨に係る浸水想定区域の指定	G	継続実施	取組内容	県内の対象河川35河川のうち、31河川で想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域の検討に着手 【日向管内】 策定済：耳川 策定中：塙見川、五十鈴川、小丸川										
				進捗状況	進捗：継続										
②	浸水想定区域や土砂災害警戒区域等の周知促進	G ト	継続実施	取組内容	県HPにおいて、土砂災害警戒区域等を周知。 また、土砂災害防止講座等においても情報等の提供について周知。										
				進捗状況	進捗：継続										
③	洪水ハザードマップの作成、改訂、周知、支援	G	継続実施	取組内容	新たな浸水予想図が公表された後に改定を行う予定	平成29年3月に洪水ハザードマップを改定し、全世帯に配布済。	H28にマップを作成し、全世帯に配布済。 県指定の見直しに併せて検討を行う。	浸水想定区域のHMは作成済	浸水想定区域はないが、危険箇所の周知等を図っていく	上記(1)-2-①と同じ	上記(1)-2-①と同じ				
				進捗状況	進捗：継続										
④	土砂災害ハザードマップの作成、周知、支援	チ	～平成33年度	取組内容	区長を通じて配布を行った。	平成30年3月に西門川地区的土砂災害ハザードマップを作成、世帯配布を実施。	H28に作成済みであるが、見直しを検討予定	基礎調査の結果を踏まえ作成を行う。	ハザードマップの見直しと周知を図る	県内市町村の担当者参加のもと、土砂災害ハザードマップ整備促進会議を2回開催し、わかりやすく利用しやすいハザードマップの作成等について意見交換を実施。	進捗：継続				
				進捗状況	進捗：継続										

日向・入郷地域の減災に係る取組方針 進捗状況表 (日向土木管内大規模氾濫等減災協議会) ※ 平成29年度実績及び平成30年度の予定

■ 概ね5年間で達成すべき目標

- 大規模氾濫等に対し地域防災力を高め「水害・土砂災害に強い地域づくり」を目指す。
- 圏域内の広域的な防災協力関係を進化させるとともに、圏域外からの支援体制づくりを整えて、災害からの早期復旧を図る。

取組番号	主な取組項目	課題対応	目標時期	年度	平成29年度							
					実施主体	日向市	門川町	美郷町	諸塙村	椎葉村	宮崎県	
⑤	まるごとまちハザードマップやマイハザードマップの取組	G へ り	H30 年度～順次実施	新たな浸水予想図が公表された後に検討を行う予定	自主防災組織の育成を図りながら、地区との協議を進めて行こう。	検討中	検討中	作成に向けて引き続き検討を行う	土砂災害に関するマイハザードマップづくりの支援は、平成30年度から実施予定	進捗：継続	進捗：継続	
⑥	過去災害実績等の周知	G ホ ー	継続実施	取組内容	台風接近前に、過去の類似台風の進路や被害記録などを対策本部内で共有した。	H 28 の台風16号について防災ハザードマップに掲載し、周知した。	検討していく。	継続して実施する	防災訓練や消防団へ継続して実施していく	【土砂災害防止講座】 平成29年6月～12月 地区住民：構成市町村内4地区 自治会長：構成市町村内3地区	【土砂災害防止教室】 平成29年5～6月 構成市町村内7幼稚園・小学校・中学校	
⑦	住民参加型の防災訓練や共同点検出前講座の拡大	H	継続実施	取組内容	地域や学校、事業所などの訓練に参加し、日ごろから灾害への備えをお願いした。 H30. 6. 10 土砂災害訓練を実施予定	H30. 5. 27 町一斉避難訓練 H30. 6. 10 土砂災害訓練を実施予定	毎年実施している。	毎年実施しているが、今後も継続的に実施する	防災訓練を毎年実施している	市町村が実施する防災訓練等に参加するなど、今後の取組を検討する。	【メディア】 平成29年5月～6月 メディアの利用（TVやラジオ、新聞など）	進捗：継続
⑧	教育機関と連携した防災教育の促進	H I へ	継続実施	取組内容	学校への出前授業などを行った。	小中学校の先生に防災士資格を取得してもらい現在22名が在籍。 総合学習の時間に防災教育。 平成30年度に、門川高校2年生が防災士資格取得に取り組む。	避難訓練等を利用し防災教育を行う。	避難訓練等を利用し防災教育を行う	教育委員会と連携して実施していく	宮崎県教育庁と連携で、大雨や地震津波に関して防災学習を実施。	進捗：継続	進捗：継続
⑨	あらゆる媒体を活用した地域住民の水防災意識啓発のための広報の充実	H I	継続実施	取組内容	広報ひゅうがで防災特集を組み、あらゆる観点から灾害への備えを周知した。	ホームページデータ更新 町広報での啓発	町HPや町ケーブルTVを通じて啓発したい。	村HPや広報などを通じて啓発の継続実施を行う。	村広報を通じて継続して実施していく	進捗：継続	進捗：継続	進捗：継続

(1)-3 地域の防災を担う人材の発掘・育成

①	防災士の登録拡大を推進	J	継続実施	取組内容	H 26 年度より資格取得の助成制度を設け登録の拡大を図っている。 昨年度は30人が資格取得した。	H 24 より防災士取得促進助成金を交付し、登録拡大を図ってきた。 H 29 は17名に交付金を助成した。	H 29 は5名が資格取得している。 防災士資格取得補助金については、現在検討している。	消防団に対する取得の助成は行っているが、今後は消防団員以外の取得支援について検討を行う。	資格取得の助成を継続して実施していく	地域の防災リーダーを育成するため、防災士養成研修を実施している。	防災士講座への講師派遣を行っている。
②	関係機関が連携した水防訓練、連絡体制、情報共有の強化	J	継続実施	取組内容	水防訓練は実施しなかったが、消防団・自主防災会との連絡は密に行なった。 消防団長は地区会長と連絡をとつてもらい情報の共有を図る。	町一斉避難訓練、土砂災害避難訓練において消防団も地区と連携してもらっている。 消防団長は地区会長と連絡をとつてもらい情報の共有を図る。	関係機関との訓練等を通じ連携を高めた。	関係機関との訓練等を通じ連携を高める。	消防団や自主防災組織との連携強化を継続して実施していく	平成29年6月～8月の2回、構成5市町村と自治体職員や消防、警察等が参加した避難訓練（情報伝達訓練）を実施。	進捗：継続
③	自主防災組織、水防団、防災リーダーの育成・強化、河川協力団体との連携	J	継続実施	取組内容	防災講演会の開催とともに、防災士の資格取得の案内を行なった。	自主防災組織活動補助金を通して活動の活性化。 毎年、町内防災士を集め意見交換会の実施。	毎年実施している「町統一防災訓練」を通じ連携強化を図りたい。	消防団、自主防災組織との訓練等を通じ連携を高める。	消防団や自主防災組織との連携強化を継続して実施していく	地域や学校、企業の防災訓練や研修会に防災士を講師として派遣している。	進捗：継続

(1)-4 円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備に関する取組

①	河川監視カメラ配置計画の再検討	K	H30年度から順次実施	取組内容	進捗状況	県内の状況を踏まえ、検討する。					進捗：継続	
②	安定した雨量・水位情報等を提供できるよう観測局の機能向上及び適切な維持管理等	K	継続実施	取組内容	進捗状況	交付金等を活用し、観測局等を含むデータ観測システムの適切な維持管理を実施。					【日向土木】 ①水位局更新（H30完了） 黒木橋・中原橋（五十鈴川） ②中継局更新（H29完了） 上椎葉・清水岳（椎葉村） ③危機管理型水位計設置（予定） 鳴子川・亀崎川・赤岩川	進捗：継続
③	新たな情報伝達手段の整備	M	H30年度から順次実施	取組内容	進捗状況	音声合成ソフトを利用した情報伝達の検討を行い、30年度から導入する。					進捗：継続	
④	防災ステーション、避難所等の防災拠点、アクセス路の整備	N	H30年度から順次実施	取組内容	進捗状況	現在、避難タワー等の避難施設を優先的に整備しているため、その整備が終了次第、備蓄品の分散化も含め計画的に整備を進めていくことにしている。	H 32 完成予定の新庁舎を中心とした防災体制の構築を図っていく。	昨年度完成した新庁舎を中心として、防災体制を構築していく。	村長期計画も含め、総合的に検討する	各避難所対策の充実を検討していく	市町村の計画等を踏まえ、必要な対策を検討していく	進捗：継続
⑤	浸水や土砂災害による途絶を考慮した避難経路や避難所の確保	O	継続実施	取組内容	進捗状況	避難路において手すり等を設置した。津波避難経路等整備補助金の補助要件に風水害等も加え拡充を図る予定である。	既存の施設について、見直し点検を図っていく。	浸水想定区域の見直し及び基礎調査結果を踏まえ、今後検討を行う。	基礎調査結果を踏まえ、継続して見直しを実施する。	避難所や避難路の見直しを継続して実施していく	進捗：継続	
⑥	浸水や土砂災害による途絶を考慮した指定避難所等における防災備蓄の強化	P	継続実施	取組内容	進捗状況	備蓄品を購入したが、今後は拠点避難所に配備を進めていく予定	自主防災組織活動補助金を使った各地区単位の備蓄庫の整備を図っていく。	土のうやスコップ等は、消防団が管理している。 その他の備蓄品については、関係機関と協力しながら配備したい。	備蓄品については毎年確保を行っているが、避難所への配備については今後検討を実施する。	H29から県の備蓄計画に基づいた椎葉村備蓄計画を作成し、備蓄を開始した	市町村の計画等を踏まえ、必要な対策を検討していく	進捗：継続
⑦	要配慮者の利用を想定した避難所等の整備	Q	H30年度から順次実施	取組内容	進捗状況	一部において避難所案内看板を設置した。	西門活性化センターについてバリアフリー化がなされ、さらなる整備促進を図っていく。	一部の施設は整備されている。 未整備箇所については、検討をしていく。	村長期計画も含め、総合的に検討する	避難所のバリアフリー化等を検討していく	市町村の計画等を踏まえ、必要な対策を検討していく	進捗：継続
⑧	防災メールへの登録促進	R	継続実施	取組内容	進捗状況	音声合成ソフトを利用した情報伝達の検討を行なう。	ガイドブック等で宮崎県防災メールの周知を図っていく。	登録を推進する。	登録を推進する	宮崎県防災・防犯情報メールサービスへの登録促進をしていく	県庁ホームページにおいて、宮崎県防災・防犯情報メールサービスの登録ページを設置し、登録を促進	進捗：継続

日向・入郷地域の減災に係る取組方針 進捗状況表 (日向土木管内大規模氾濫等減災協議会) ※ 平成29年度実績及び平成30年度の予定

■ 概ね5年間で達成すべき目標

- 大規模氾濫等に対し地域防災力を高め「水害・土砂災害に強い地域づくり」を目指す。
- 圏域内の広域的な防災協力関係を進化させるとともに、圏域外からの支援体制づくりを整えて、災害からの早期復旧を図る。

取組番号	主な取組項目	課題対応	目標時期	年度	平成29年度											
					実施主体	日向市	門川町	美郷町	諸塙村	椎葉村	宮崎県	気象台				
(2) 的確な防災活動のための取組																
(2)-1 防災体制の強化に関する取組																
①	重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認	R	継続実施	取組内容	適宜、検討を行う	県補助金を活用しながら、新庁舎建設時に水防倉庫の充実を図っていく。	自主防災組織や消防団に水防資機材の確認を実施	継続して実施する	継続して実施していく	平成30年度に五十鈴川(更生橋)のはん濫危険水位等の見直しを予定。毎年度、出水期までに水防資機材の確認を実施						
	水防団等の確保に関する取組を推進	S	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	団員の確保に向けて、研修会やレクリエーションの開催、資器材の充実を図った。	事業所登録制度を利用して、事業所の協力を得ながら確保していく。	今後も継続的に取り組んで行く。	今後も確保に向けた取組を継続的に実施する。	継続して実施していく	総合評価晒式による入札において、消防団員の雇用を評価					
	水防訓練、避難訓練の充実	S	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	地域や学校、事業所などの訓練に参加し、日ごろから災害への備えをお願いした。	H29.5.28 町一齊避難訓練を実施。沿岸部は津波避難、他地域は土砂災害避難を想定。2,680人が参加した。	毎年9月に、町統一防災訓練を実施	継続して実施する	椎葉村防災訓練に合わせて継続して実施していく	平成29年6月と8月の2回、構成5市町村と自治体職員や消防、警察等が参加した避難訓練(情報伝達訓練)を実施。					
	水防団間での連携協力に関する検討	S	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	消防団部長会等において連携と協力を確認した。	高級幹部会を実施し、連携を図っている。	統一防災訓練時に自主防災組織と消防団で連携を図っている。	継続して実施する	近隣消防団との更なる連携協力を実施していく	市町村の要望に応じて、広域消防体制の構築に向けて、検討していく。					
(2)-2 災害時に拠点となる施設の自衛防災																
①	施設関係者への情報伝達の充実	T	継続実施	取組内容	台風接近前に関係課を通じて、情報伝達の確認を行った。	H30ウェザーニューズのメール配信システムを導入。	自主防災組織の責任者(区長)への連絡について、区長会にて依頼した。	情報伝達手段の見直し等を行い、確実に情報提供出来るよう検討を行う。	情報伝達の多重化に向けて継続して検討していく	タイムライン・ホットラインを活用し、市町村への情報伝達の徹底を推進						
	施設の耐震化や耐水扉の設置、非常用発電等の整備を促進	T	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	市庁舎建設に合わせて、非常用発電機等の整備を行った。	H29の新庁舎建設時に非常用発電装置の設置を行った。	継続して実施する	進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続					
	自衛防災マニュアル整備の促進	T	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	地区防災計画を4区が着手しており、1区は、助言・意見の協力をしている。	町内事業所が防災マニュアル整備の際に作成をしている。	一部、自主防災組織においてマニュアル作成をしている。	継続して実施する	B C Pや職員初動マニュアル等の見直し等を継続して実施していく	防災マニュアルを整備					
(3) 被害の軽減・早期復旧に関する取組																
(3)-1 被害軽減の取組																
①	鍵門や排水機場等の既存施設を有効に活用するための操作の検証	U	継続実施	取組内容	水門管理点検を実施した。	消防団に委託 本年度操作研修を実施予定	必要に応じ検証する。			関係市町と連携し、出水期前に鍵門操作訓練を実施						
				進捗状況 進捗:継続		進捗:継続	進捗:継続			進捗:継続						
	災害危険区域等の指定推進	W	継続実施	取組内容	土砂災害警戒区域等の指定の推進	町ホームページや冊子での情報提供、啓発活動。 土砂災害警戒区域等の指定の推進 宮崎県の浸水想定区域指定の状況を見ながら検討していく。	土砂災害警戒区域等の指定の推進	土砂災害警戒区域等の指定の推進	関係機関と連携して実施していく	水害危険区域の指定にあたって参考となる、想定しうる最大規模の降雨による浸水想定区域作成の検討について、県内の対象河川35河川のうち、31河川で着手【日向管内】 策定済：耳川 策定中：塩見川、五十鈴川、小丸川 土砂災害警戒区域等の指定の推進						
	浸水被害軽減地区的指定	W	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	県や関係部局と連携し、検討を進める。 地域の動きと連携した活動を図っていく。	関係部局と連携し検討を行う。	関係部局と連携し検討を行う。	関係機関と連携して検討していく	上記(3)-1-②と同じ						
	総合流域防災計画に基づく確実な施設整備を推進すると共に適切な維持管理に努める。	Y	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続		進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続	河川改修事業、土地利用一体型水防災事業等を実施					
⑤	土砂災害から住民を守る施設の整備を行う。	Y	継続実施	取組内容	急傾斜地の対策事業を進めている	急傾斜地の対策事業を進めている 新庁舎建設時を中心とした防災対策の構築を図る	国・県の砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業の実施や町単独の事業を実施している。	急傾斜地の対策事業を進めている	急傾斜地の対策事業を進めている	構成市町村内19地区において、砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業、地すべり対策事業を実施						
				進捗状況 進捗:継続		進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続						
(3)-2 早期復旧の取組																
①	水防資機材の保有状況の確認、見直し	V	継続実施	取組内容	排水ポンプ2基を増台し、自主防災用に保有状況については毎年度確認している。 今後資機材の充実を図っていく。	保有状況については毎年度確認している。 今後資機材の充実を図っていく。	随時見直しを継続する。	随時見直しを継続する	資機材の点検や見直しを継続して実施していく	毎年度、出水期までに水防資機材の確認を実施						
	ライフラインを確保するための復旧優先施設の検討	Z	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	地域防災計画において定める施設で検討する。	H29水道課アセットマネジメント作成。 南海トラフ想定での重要施設管路について、耐震化計画設定。	医療機関、福祉施設、避難所等の重要施設について検討したい。	関係機関との連携を行い、検討する。	関係機関との連携を図り、検討していく	日向土木B C P計画を策定しており、有事の際は計画に基づき行動する。					
	復旧の優先度や支援団体の配置を指揮・調整する復旧対策指揮体制の構築	Z	継続実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	災害対策本部及び関係機関と連携を行い検討する。	災害対策本部における指揮体制を図る。	災害対策本部にて指揮体制を図りたい。	関係との連携を行い、検討する。	災害対策本部業務の充実を継続して検討していく	日向土木B C P計画を策定しており、有事の際は計画に基づき行動する。					
	災害時支援計画の策定	Z	H30年度から順次実施	取組内容	進捗状況 進捗:継続	日向入郷の市町村で策定に向けての協議を重ねた。 ※全体計画策定後、各市町村において個別に受入計画の策定が必要。			進捗:継続	進捗:継続	進捗:継続					